

デジタル・スマートシティ浜松の推進 ～アーキテクチャーから見た現在地～

令和3年8月3日

Digital Smart City HAMAMATSU



デジタル・スマートシティ推進事業本部 瀧本 陽一





- 1 浜松市の特徴
- 2 デジタル・スマートシティ浜松の推進
- 3 浜松市が目指すスーパーシティ
- 4 最後に

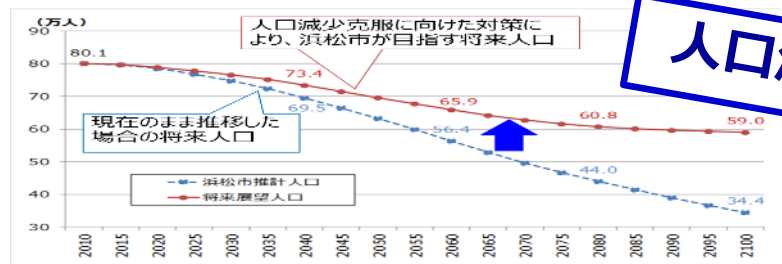


国土縮図型の政令指定都市・浜松

全国の市町村が抱える課題を
凝縮した政令指定都市

- ① 広大な市域【全国第2位】
(市域の約67%は森林)
- ② 道路総延長【全国第1位】
- ③ 橋梁数【中部地整管内第1位】
- ④ 過疎地域を内包
(みなし過疎地域：市域面積の約50%)

<人口の将来展望：人口ビジョン>



人口減少

浜松で持続可能な都市モデルを確立
できれば日本全体のモデルとなる

<浜松市の強み>

- ① **健康寿命** 三期連続日本一
- ② **幸福度** ランキング 政令市第2位 (2018年：1位)
- ③ **SDGs未来都市** (2018年度第1回認定)
- ④ **再生可能エネルギー導入容量** 全国第1位

※浜松市域“RE100”表明 (令和2年3月)

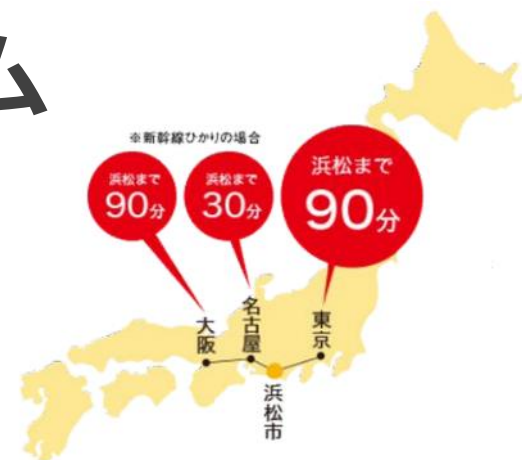
- ④ 日本有数の「**ものづくりのまち**」

 **SUZUKI**  **YAMAHA**  **HONDA**  **YAMAHA**  **KAWAI**  **Roland**  **HAMAMATSU**
The Power of Dreams

- ⑤ **スタートアップ**・エコシステム
グローバル拠点都市

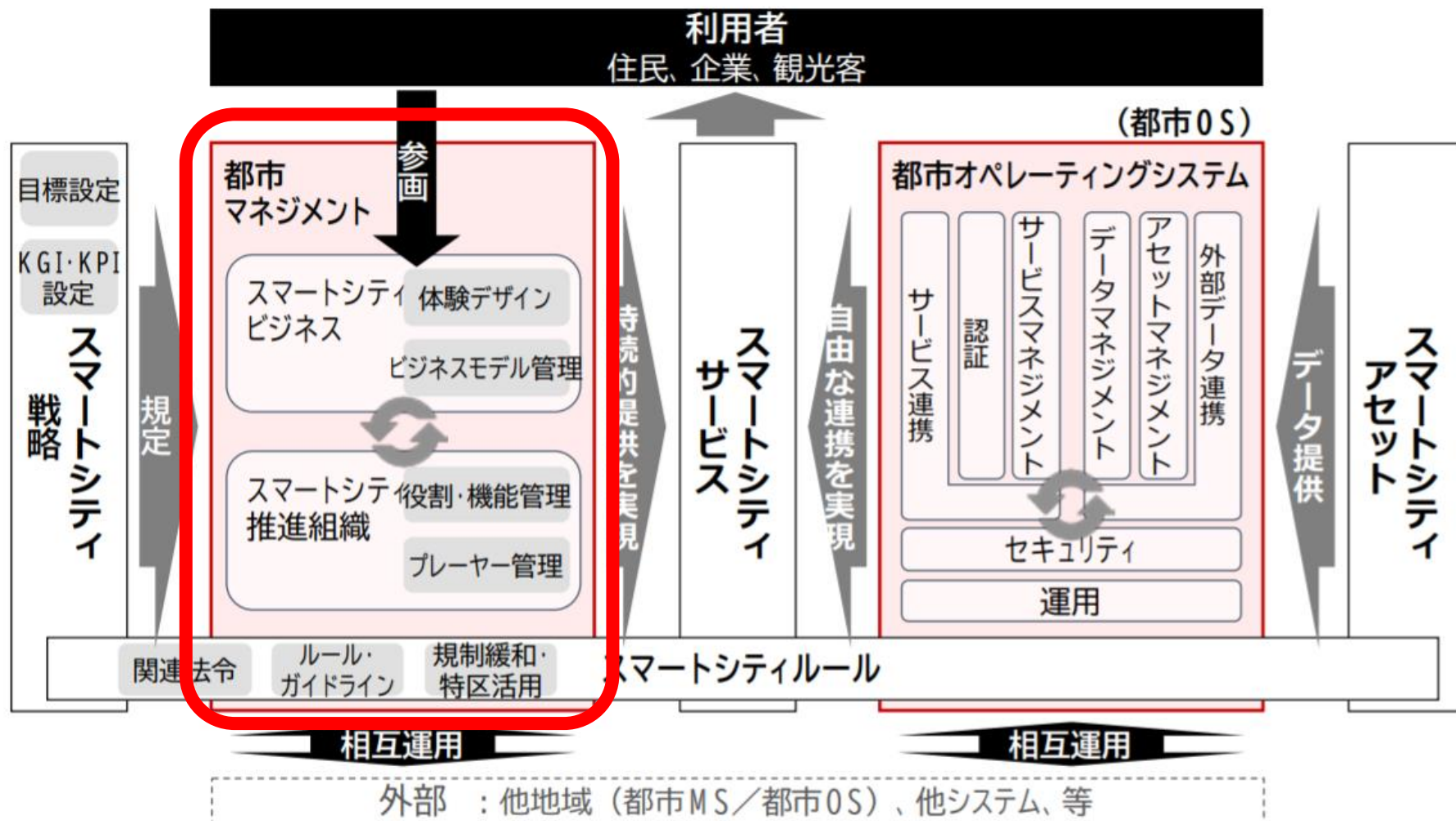
- ⑥ 世界に誇る「**音楽の都**」

- ⑦ **農業**産出額 全国第7位



2 デジタル・スマートシティ浜松の推進

都市マネジメント（体制）





都市マネジメント（体制）

デジタルファースト宣言

■ 宣言日 令和元年10月31日

■ 目的

人口減少・少子高齢化をはじめとした社会課題が深刻化するなか、AI・ICT等先端技術やデータ活用などデジタルの力を最大限に活用し、持続可能な都市づくりを推進する。

■ 戦略分野

- （１）「都市づくり」のデジタルファースト【都市の最適化】
- （２）「市民サービス」のデジタルファースト【市民サービス向上】
- （３）「自治体運営」のデジタルファースト【自治体の生産性向上】

■ 浜松市フェロー



陳内 裕樹 氏



東 博暢 氏



関 治之 氏



日下 光 氏



南雲 岳彦氏



都市マネジメント（体制）

推進体制

【庁内組織】 R2.4.1設置

デジタル・スマートシティ
推進事業本部



連携

【官民連携組織】 R2.4.1設立

浜松市デジタル・スマートシティ
官民連携プラットフォーム

浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム

代表：浜松市長、事務局：浜松市（推進事業本部）

会員数:124
(R3.4.20現在)

デジタル・ガバメント分野

浜松市所管部局

防災・安全分野

浜松市所管部局

教育・子育て分野

浜松市所管部局

観光・商業分野

浜松・浜名湖
ツーリズムビューロー

産業(ものづくり)分野

浜松市スタートアップ戦略
推進協議会

運営委員会

※必要に応じ部会や
分科会を設置

エネルギー分野

浜松市スマートシティ推進協議会

モビリティ分野

浜松市モビリティサービス
推進コンソーシアム

農林業分野

【林業】 静岡県農林技術研究所森林・
林業研究センター
【農業】 浜松スマート農業推進協議会 準備会

健康・医療・福祉分野

浜松ウエルネス推進協議会
浜松ウエルネス・ラボ

都市マネジメント（体制）

浜松市デジタル・スマートシティ推進本部

（本部長：市長、事務局：デジタル・スマートシティ推進事業本部）

※庁議メンバーで構成

デジタル・スマートシティ推進WG

関係課で構成するWGを設置し、取組の共有を行うとともに、全庁的なデジタル・スマートシティの推進を牽引する。

＜データ連携基盤部会＞

データ連携基盤の本番環境の実装に向け、防災関係の部署等で構成するデータ連携基盤部会を設置し、ユースケースづくりに向け、勉強会や意見交換等を行う。

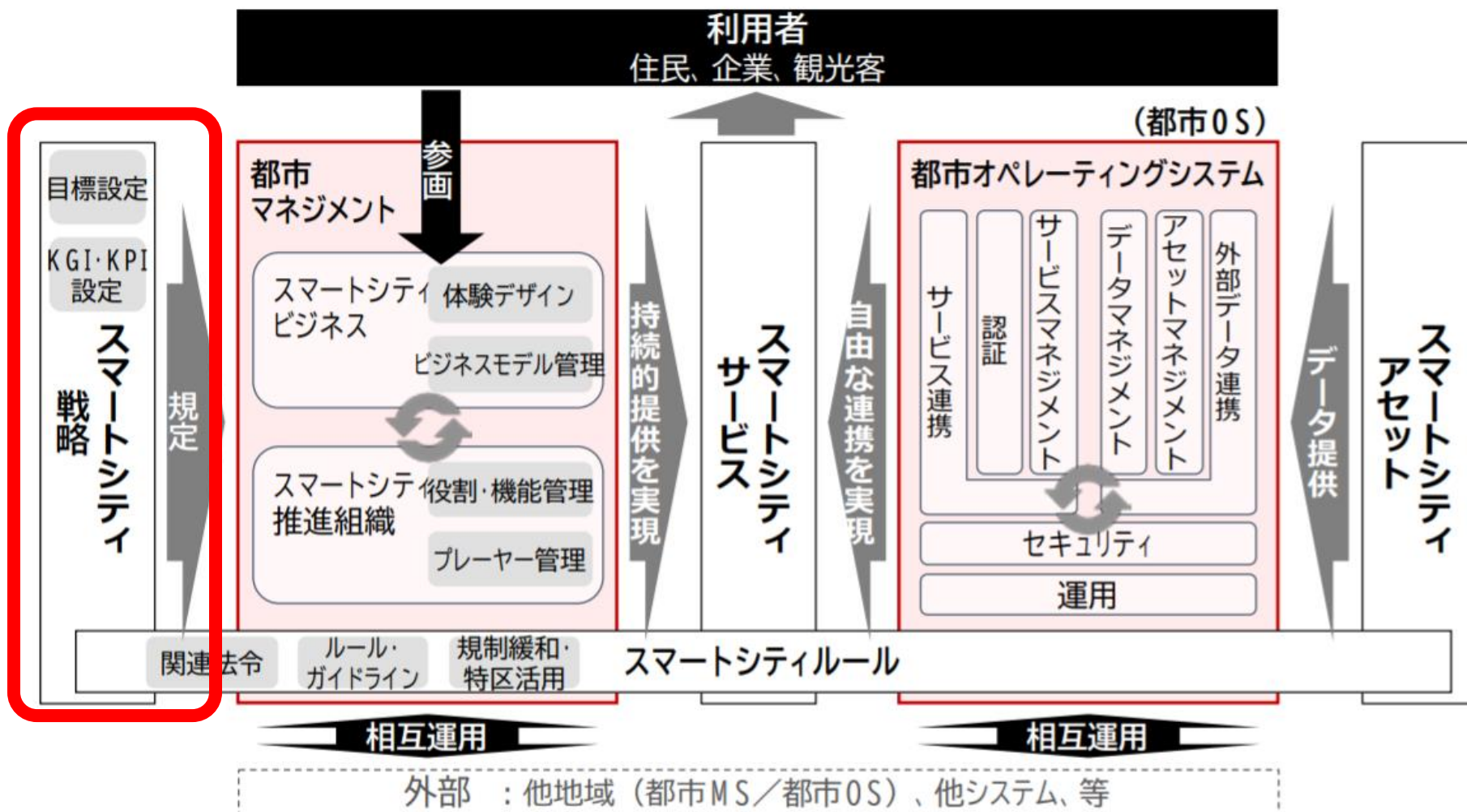
※各課は、デジタル・スマートシティに関する先進事例等の情報収集を行い、取組を推進する。

デジタル・ガバメント推進PT

- 1 AI・RPA等先進技術を活用した生産性向上（デジスマ本部）
- 2 行政手続きのオンライン化の推進（情報政策課）
- 3 ペーパーレス化の推進（政策法務課）
- 4 LGXの横展開の推進（情報政策課）
- 5 テレワーク等柔軟な執務環境の整備（人事課）
- 6 キャッシュレス決済の推進（デジスマ本部）
- 7 電子請求・電子契約の推進（調達課・会計課）

※必要に応じ取り組み内容を追加する

スマートシティ戦略



～デジタルで“繋がる未来”を共創～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoLの向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。

目指す方向性（基本理念） 「市民QoLの向上」と「都市の最適化」



推進体制とエコシステム

官民共創によるまちづくりを進め、「地域課題の解決」と「イノベーションや新たなビジネスを創出」するエコシステム（好循環）を形成します。



【推進体制】

- 「浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム」(PF)を中核に官民共創でデジタル・スマートシティを推進。
- PFは各分野の推進組織と連携し、分野間連携とデータ活用を推進。
- PFは民間主導のプロジェクトの創出を支援し、市民目線で地域のプラットフォーム及びコーディネーターの機能を担う。

【目指すエコシステム】

- ベンチャーなどから課題解決のアイデアやソリューションの提案を受け、実証実験を実施。
- 実証実験は「国土縮図型都市・浜松」の多様なフィールドを活用。
- トライ＆エラーを繰り返し、社会実装へとつながる。

市民は、実証実験への参加やサービスを選択する形で「市民QoL向上」に貢献。

企業は、地域課題の解決に貢献することでイノベーションや新たなビジネス創出の機会とする。

デジタルで“繋がる未来”の概観

デジタルの力を最大限に活用し、課題解決型のアプローチと未来に夢と希望を持てるチャレンジを組み合わせることで、ヒト・モノ・コトを繋ぎ、“繋がる未来”を創造します。



遠隔医療やIoTを活用した見守りでどこでも安心して生活。AIがデータに基づきお薦めの食事や運動を紹介してくれて、いつまでも健康に生活。

高齢者や障がい者、外国人、女性、誰もがデジタル技術に支えられ、社会と繋がりが、それぞれの力を発揮。

デジタル活用で世界と音楽で繋がり、デジタル・音楽・芸術が融合した新たな文化を浜松から発信。

世界の学校と繋がりがオンライン留学。AIが自分にあった学習メニューを推薦。年齢に関係なく、誰でも多様な学び機会があり、いつでもチャレンジ可能。



ドローンやロボットの活用で省力化と生産性が向上。AIやビッグデータを駆使し、付加価値が向上した儲かる農林業が実現。



どこにいてもドローンで好きなもの・サービスがいつでも届く。免許を返納してもライドシェアや自動運転で自由にどこへでも移動。



スマホ1台でどこでもいつでも簡単手続。必要な情報は必要な時に届き、困ったときは、24時間、AIコンシェルジュが対応。職員の対面相談も選べる、便利で安心な市役所。



センサーのデータやAI予測により危険を回避。被害を最小限に抑え、災害の状況もリアルタイムで可視化。大切な人や情報、支援に繋がり安全・安心な社会を実現。

デジタルで “繋がる未来”の キーワード

- 人と人が繋がる（リモートでの見守りや面会、相談、帰省等）
- 社会と繋がる（高齢者や障がい者、外国人、女性等の社会参加をサポート）
- 都市部と地方が繋がる（リモートワークや多拠点居住の促進）
- サービスが繋がる（遠隔教育、遠隔医療、遠隔鑑賞等）

浜松市デジタル・スマートシティ構想

Digital Smart City HAMAMATSU

第一期（2020年度～2024年度）における重点取組分野

2020年度から2024年度の5年間で第一期と位置づけ、①本市の強みを活かした取組、②ウィズコロナ、ポストコロナのニューノーマルや安全・安心への対応、③課題解決型アプローチによる持続可能で包摂的な社会の構築に向けた取組、④推進基盤の構築や強化に重点的に取り組みます。

①浜松の強みを 唯一無二のものに

ウェルネス

- 「予防・健康都市浜松」実現に向けた官民連携
- 健康情報を活用した生活習慣病等の予防・改善
- 介護ロボット等の活用による介護従事者の負担軽減
- AI等を活用した健診（検診）の受診率向上

音楽文化・ エンターテイメント

- デジタル技術を活用した文化事業の実施
- ニューノーマル時代のエンターテインメントの新たな楽しみ方の創出と普及
- インターネットを活用した音楽文化等の発信とリモートによる国際交流の推進

産業（ものづくり・農林業）

- 国土縮図型都市・浜松のフィールドを活用した新たなサービスやソリューションの創出
- サテライトオフィス等を活用したベンチャー企業等の誘致
- スマート農林業の推進
- 中小企業の生産性向上に向けたIT・IoT等の活用支援

商業・観光

- デジタル・マーケティングの活用による情報発信
- 新しい生活様式に即した観光の活性化と賑わいの創出
- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進
- キャッシュレスの推進
- デジタルを活用したインセンティブ付与による誘客や消費活性化の研究

②浜松らしい ニューノーマル社会の実現を目指して

リモートワーク・ 多拠点居住

- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進
- リモートワークやテレワークの推進
- テレワークパーク構想の推進
- 副業・兼業人材の活用促進

見守り・ 災害対応

- IoT等を活用した高齢者や子どもの見守り推進
- 災害予測や災害状況の効果的な把握
- 災害関連情報の効果的な提供
- 避難所の効果的な3密対策

教育・ 子育て

- GIGAスクール構想の実現に向けた教育環境整備
- オフライン授業とオンライン授業のハイブリッドによる持続可能な教育の推進
- ICT等を活用した子ども子育て世代への効果的な情報提供や相談体制の構築

デジタル・ ガバメント

- 書面規制・押印・対面規制等の見直し
- 行政手続きのオンライン化やキャッシュレスの推進
- マイナンバーカードの取得促進とマイナンバーカードを活用した行政サービスの拡充
- 多様な伝達手段による情報の提供
- AIやICT等の活用による生産性の向上
- DX推進に向けた職員の人材育成

第一期

デジタル・ スマートシティ 浜松 の基礎固め

③デジタルの力で持続的・包摂的社会を構築

モビリティ

- モビリティとサービスの連携による持続可能なまちづくりの推進
- モビリティサービス推進コンソーシアムを中核とした官民連携によるプロジェクトの創出
- 医療MaaSの推進
- デリバリープラットフォームの推進
- テレワークパーク構想の推進

社会参加促進

- AIやICT等の活用による障壁の除去
- バリアフリー情報等のオープンデータ化の促進
- 情報へのアクセシビリティの向上
- ICT技術やSNS等を活用した市民参加の促進
- シニア向けスマホ講座等の充実

インフラ

- ドローンやセンサー等の活用によるインフラの老朽化対策
- 点群データなどインフラ情報のデジタル化
- 都市のデジタル化推進におけるインフラの活用や高度化の検討

エネルギー・循環型社会

- 「浜松市域「RE100」」の実現に向けた推進
- スマートコミュニティ、スマートタウンのモデルの構築
- スマートプロジェクトの実現
- 新清掃工場及び新破砕処理センターをモデルとしたサーキュラーエコノミーの推進

④共創の基盤を構築し より強固なものに

官民共創による 推進体制の強化

- 浜松市フェロー等外部人材の活用
- 官民共創によるプロジェクト創出に向けたアイデアソン等の開催
- 次代を担う若者世代の巻き込み
- 官民連携プラットフォームを活用した分野間の連携促進
- シビックテックとの連携や共創

データ連携基盤の整備や オープンデータの拡充

- データ流通のハブとなるデータ連携基盤の整備と利活用
- データ連携基盤の活用事例の創出（Ori-Projectの推進）
- オープンデータプラットフォーム(ODPF)の整備と利活用
- 点群データのオープンデータ化と利活用促進

人材育成

- 次代を担う若者の育成
- データ利活用に関するセミナーやハッカソン等の開催
- シニア向けスマホ講座等の充実
- 人材育成におけるリモートやオンラインセミナー等の活用
- 人材育成における大学やCode for Japan等との連携

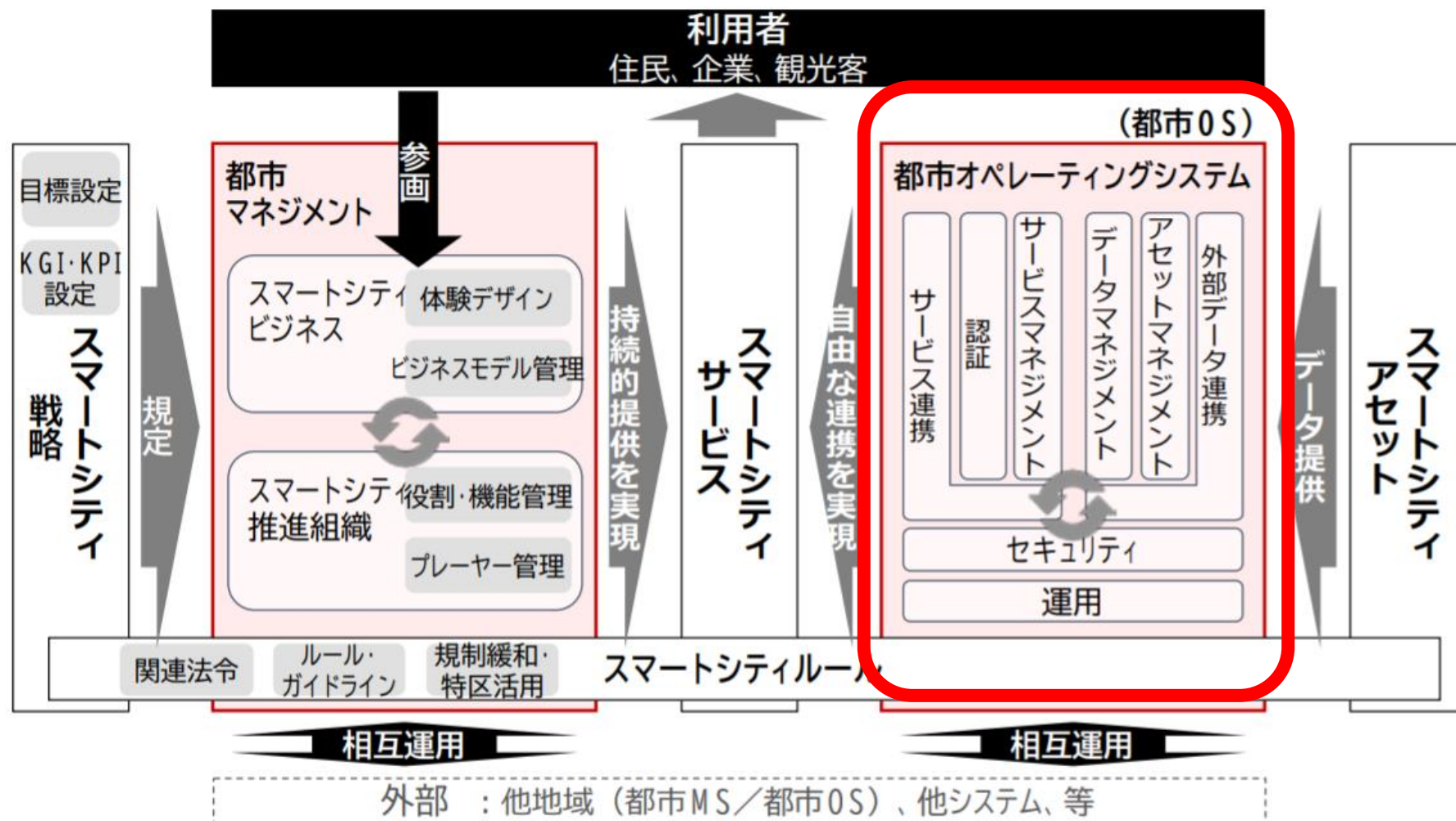
通信基盤等の 整備や利活用促進

- 中山間地域等への光ファイバ網の整備支援
- 5Gアンテナ基地局の設置や利活用の促進
- 各種通信（高速・低速等）活用の事例の共有と横展開
- 活用事例の創出やニーズ喚起による各種通信インフラ整備の働きかけ

2 デジタル・スマートシティ浜松の推進

Digital Smart City HAMAMATSU

都市OS（データ連携基盤）



市民QoLの向上と都市の最適化

◆オープンイノベーション ◆市民起点 ◆アジャイル型まちづくり

地域課題解決

イノベーションや新たなビジネス創出

浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム

◆分野間連携推進 ◆データ利活用推進 ◆事業化支援 等



エネルギー



モビリティ



防災



健康・医療
・福祉



農林業



教育・
子育て



観光・
商業



産業
(ものづくり)



デジタル・
ガバメント

データの
見える化

◆ダッシュボード
◆BIツール 等

データ連携基盤（API・データ統合基盤）

※オープンデータの推進

行政

- ◆避難所
- ◆休日当番医
- ◆病院、診療所
- ◆学校、幼稚園、
保育園 等

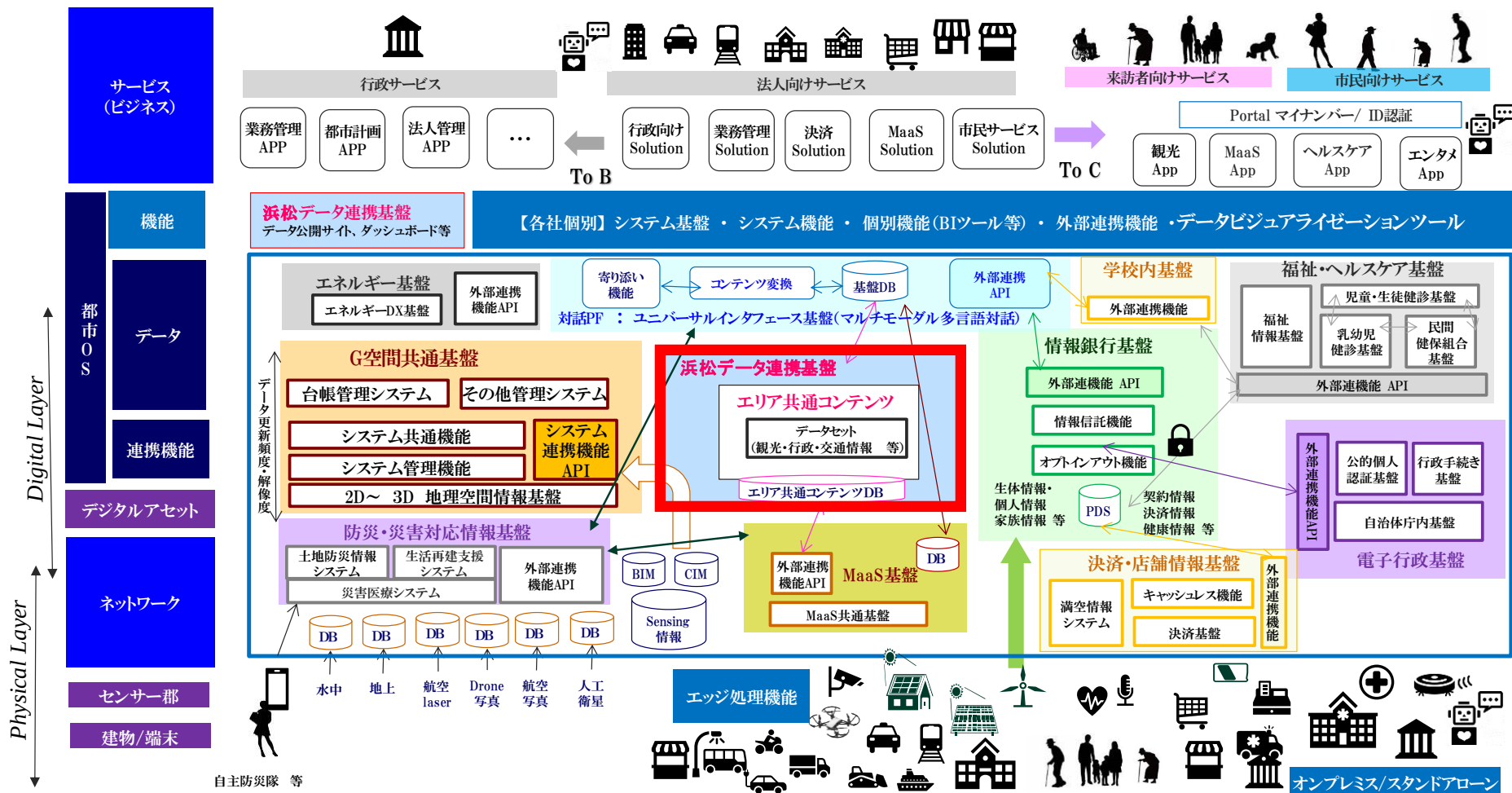
民間

- ◆交通
- ◆電力
- ◆決済
- ◆健康 等

空間

- ◆水位
- ◆温度
- ◆道路渋滞
- ◆駐車場の満空 等

- 分散して存在する多種多様な基盤の「ハブ」となり、「データの流通・連携をサポート」するデータ連携基盤の利用を目指す。



分散して存在する多種多様な基盤の「ハブ」となり、「データの流通・連携をサポート」するデータ連携基盤の利用を目指す。

データ連携基盤は**所有しない**。サービスとして利用する。

スモールスタート。ユースケースが増えればデータ流通量に合わせてスケールアウトしていく。

規格やソース、クラウド環境は**オープン**であること。

変化のスピードが速い中で、**疎結合**と**回遊性**を担保。

ミニマムな本番環境と検証環境を用意。**他都市と共用**でも構わない。

データは、官民それぞれが独自に分散保有しているものを一元的に集約するのではなく、**データそのものの管理は分散**したままに、オープンAPIを介してデータを連携させ、流通させる。

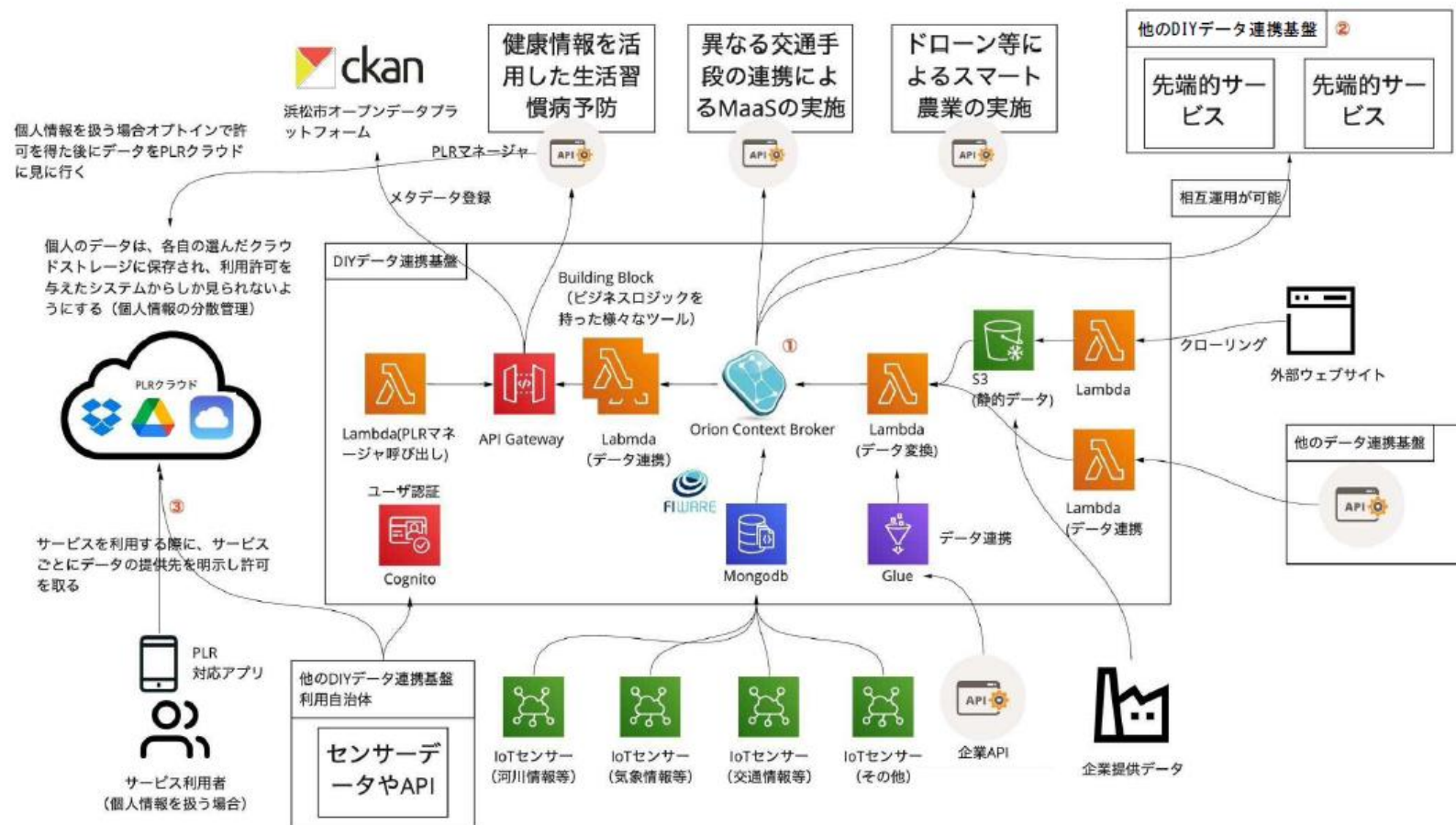
データ連携基盤で流通するデータには、当面**個人情報扱わない**。

データ連携基盤の概要（構成図）

先端的
サービス

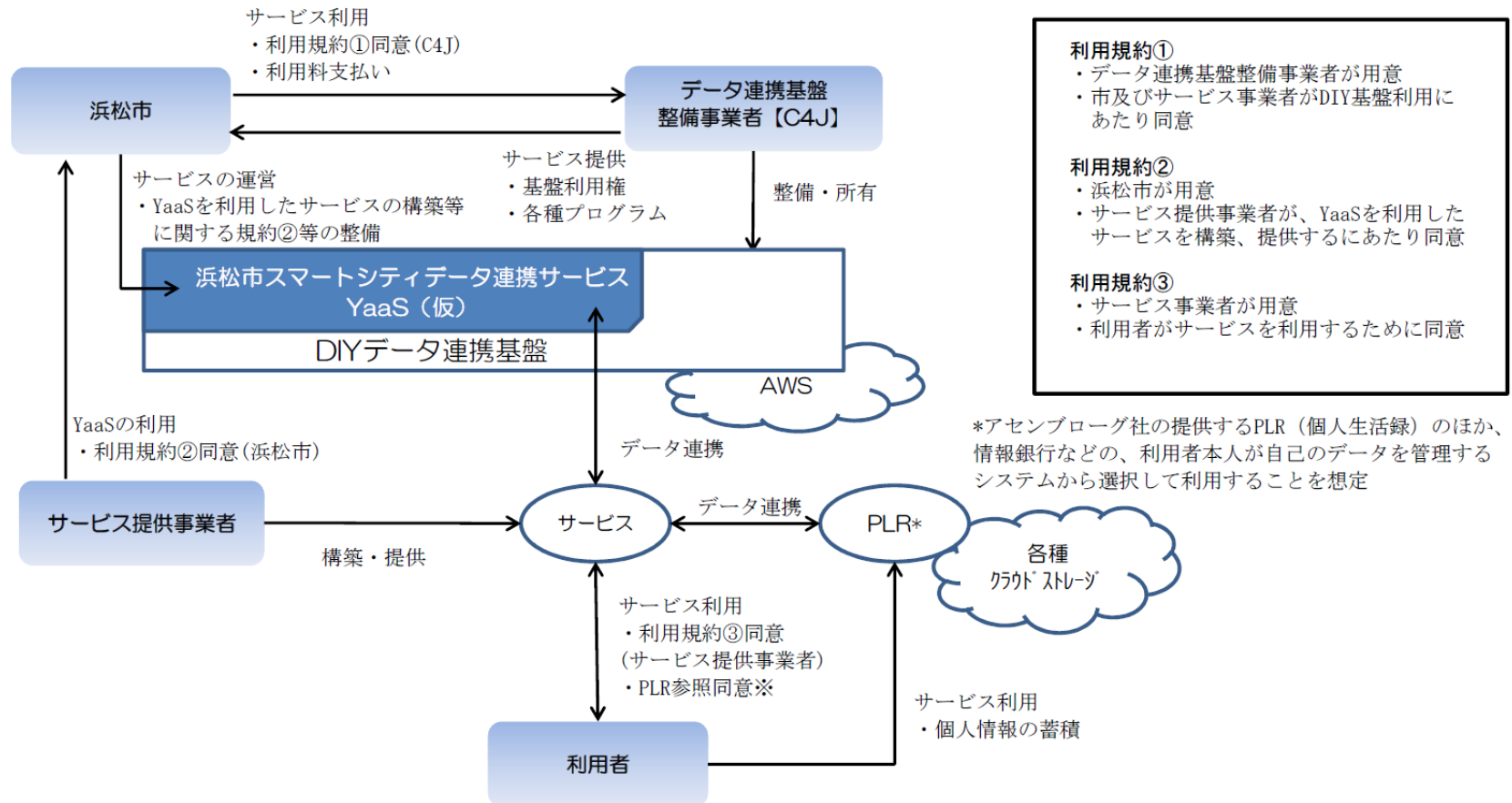
データ連携基盤

データ提供

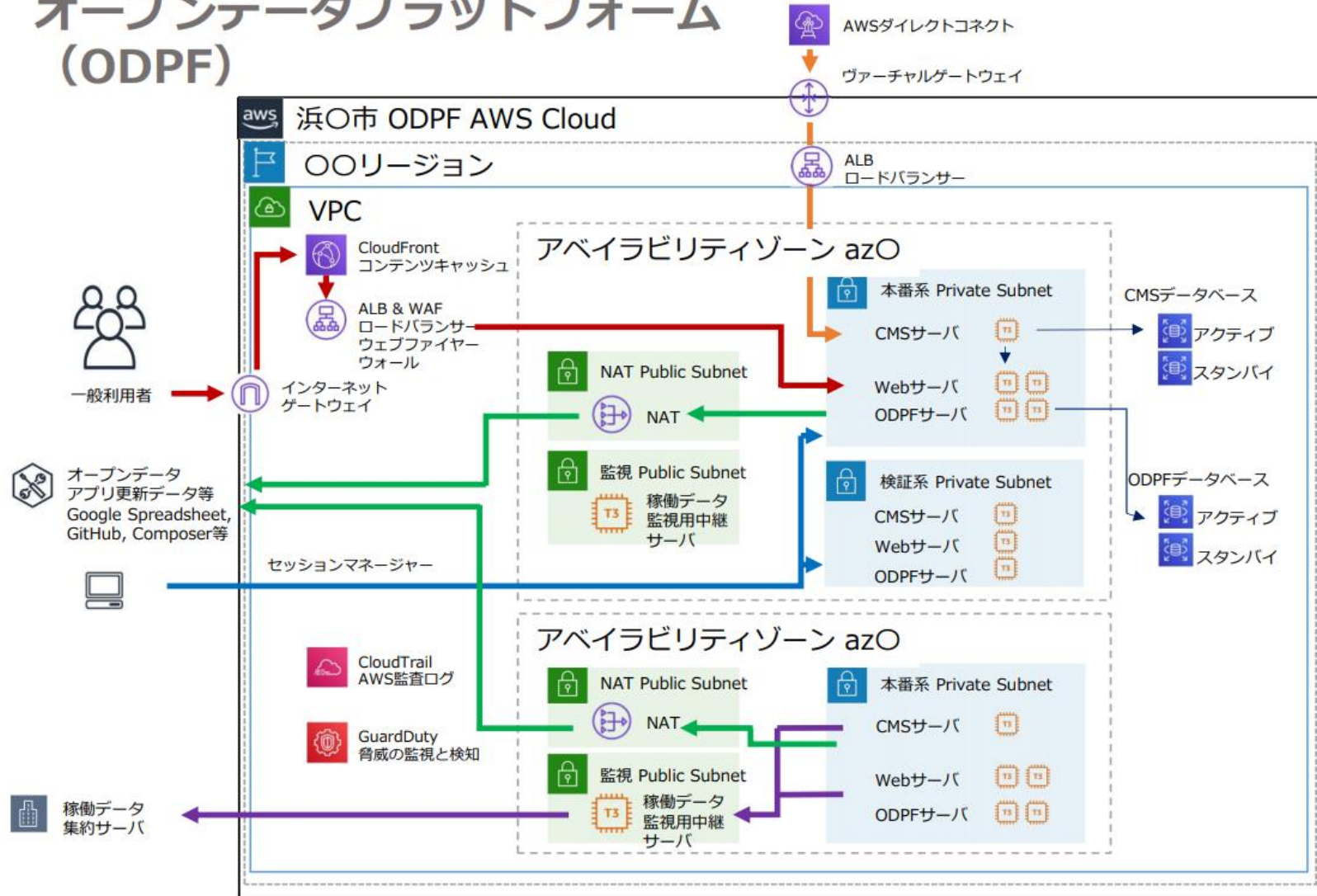


参考 データ連携基盤利用関係主体の整理図

2021.6.1



オープンデータプラットフォーム（ODPF）



- ・ 各種入力源からの情報を、パブリッククラウド上の「オープンデータプラットフォーム」に集約
- ・ 市民が自ら選択したツールやデバイス、メディアに送付
- ・ 市民が受け取る情報は、市民が自ら選択した属性やエリアに応じてセグメント配信

2020年度構築

市民が求める情報

防災情報

行事・イベント

健康・医療

ごみ・リサイクル

届出・証明・窓口混雑状況

入力源（情報源）

CMS

LINE BOT

Google
スプレッドシート

IoTセンサー
(NGSI : FIWARE等)

浜松市ODPF
NAOTORA (仮称)



市民への配信媒体



ホーム
ページ



LINE



AI
スピーカー



メール



facebook



twitter



電話



FAX



スマホ
アプリ



FIWARE

※NAOTORA : Next Age Open data Transfer Organization Reliable Assistant

データ連携基盤を活用したユースケースづくり

Hamamatsu ORI-Project

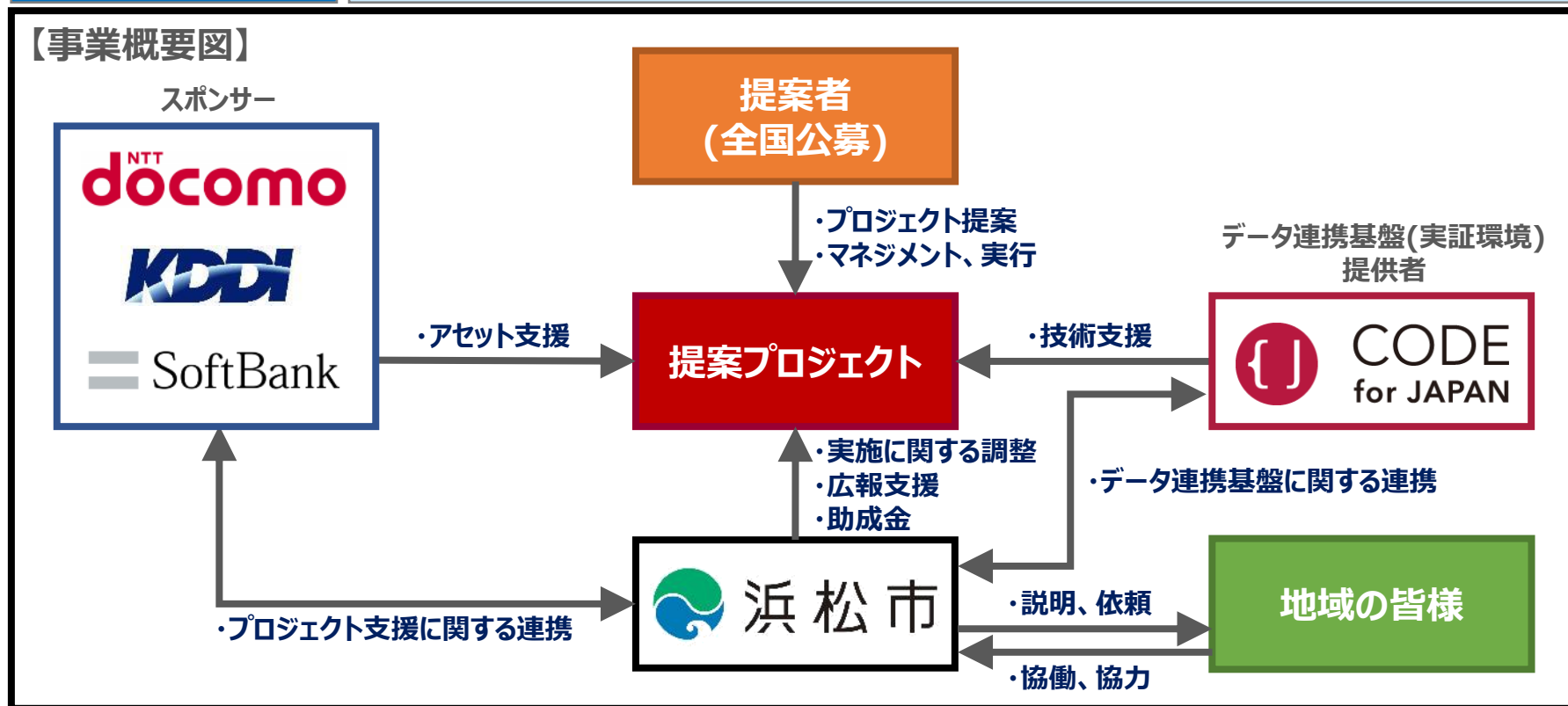
- データ連携基盤(実証環境)を活用した実証実験プロジェクト。
- 国土縮図型都市・浜松をフィールドにした実証実験プロジェクトを全国から募集。

➤ **Hamamatsu ORI-Project** (Hamamatsu **O**pen **R**egional **I**nnovation Project)
 正式名称：“デジタル・スマートシティ浜松” データ連携基盤を活用した実証実験募集プロジェクト

プロジェクトの目的

データ連携基盤を活用した新たなアプリケーションやサービスの創出。

【事業概要図】



データ連携基盤を活用したユースケースづくり

Hamamatsu ORI-Project

- 基本的な募集の条件は「データ連携基盤（実証環境）の利用」「浜松市がフィールド」。
- 募集条件とは別に、令和3年度は「スマート農業・林業」「市民目線の暮らしやすさ」を推奨テーマとしている。デジタル・スマートシティ推進に有効なプロジェクトはテーマに関わらず積極的に採択する。

募集条件

募集対象者	募集要領及び参加規約に同意し、主催者及び協力会社が提供する <u>データ連携基盤（実証環境）を利用</u> した実証実験の実施を希望する <u>法人又は個人</u> 。
対象となる 実証実験	主催者及び協力会社が提供する <u>データ連携基盤（実証環境）を利用</u> し、 <u>浜松市内をフィールド</u> とした実証実験。

推奨テーマ ※浜松市として、本プロジェクトにおいて力を入れて推進したいテーマ

スマート農業・林業



浜松市の農業・林業課題を解決すること
を目的としたプロジェクト

市民目線の暮らしやすさ



実証実験の中で、市民目線で暮らしやすさを実感できるプロジェクト

本年度は13件の提案プロジェクトのうち、7件が採択

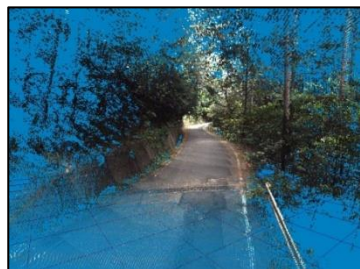
応募プロジェクト一覧（※テーマ別50音順）

テーマ	法人名・団体名	所在地	実証実験プロジェクト名称
 農林業 (2件)	(株)フジヤマ	静岡県 浜松市	3D点群データを利用した林道の利活用・維持管理・防災点検運用支援
	Yui support(株)	静岡県 浜松市	キッチンカーを活用した市民参加型 6 次化実証プロジェクト
 暮らしやすさ (4件)	国立大学法人静岡大学	静岡県 静岡市	新型コロナウイルス感染シミュレーションに向けたD2D社会実験
	ためま(株)	広島県 広島市	まちの情報シェアアプリの災害時ボランティアニーズ収集活用
	八千代エンジニアリング(株)	東京都 台東区	海域（浜名湖含む）へ排出されるプラスチック等の人工系ごみ輸送量の実態把握
	(一社) One Smile Foundation	神奈川県 横浜市	AIによる街の幸福度向上と可視化プロジェクト
 その他 (1件)	どこでもdoerプロジェクト事務局(個人)	神奈川県 藤沢市	どこでもdoerプロジェクト

個別プロジェクト紹介



3D点群データを利用した林道の利活用・維持管理・防災点検運用支援



MMS3D点群データ



UAVレーザ活用データ

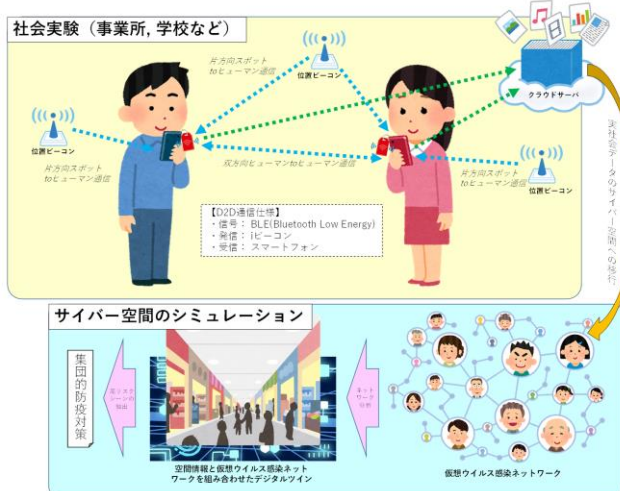


FIWARE



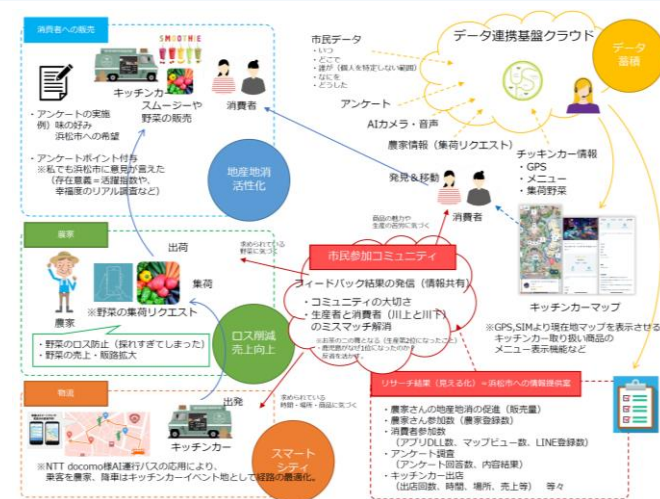
新型コロナウイルス感染シミュレーションに向けたD2D社会実験

社会実験とシミュレーションのイメージ



キッチンカーを活用した市民参加型6次化実証プロジェクト

Digital Smart City
HAMAMATSU



まちの情報シェアアプリの災害時ボランティアニーズ収集活用

ITリテラシーに関わらず、1分で投稿



平常時



災害時



個別プロジェクト紹介

海域(浜名湖含む)へ排出されるプラスチック等の人工系ごみ輸送量の実態把握



AIによる街の幸福度向上と可視化プロジェクト



アプリイメージ (本実験では写真は記録しません)

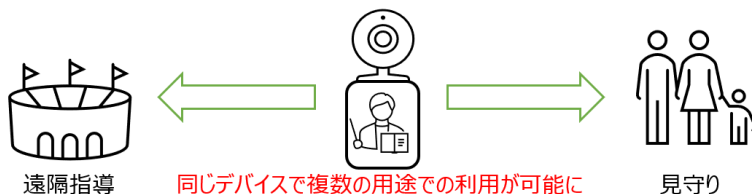
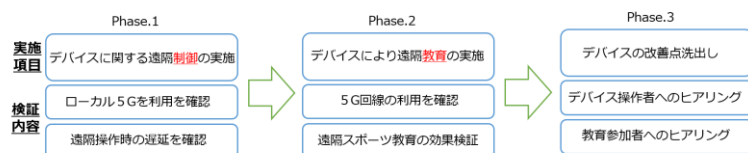


どこでもdoerプロジェクト

本頁の
要約 「スポーツ教育」の問題を1つのソリューションで解決するためのファーストステップ

遠隔指導と現場の見える化で、スポーツ教育の諸問題を解決する

本プロジェクトは一見すると異なる課題を1つのソリューションで解決できることに気が付いた所からはじまりました。本年度の実証試験では地域のスポーツ教育（部活動含む）での活用によりデバイスの利用価値を算出すること、通信環境を含むデバイスの機能の試験を予定しています。



(第1回 7/6(火)開催、月1回程度の開催を予定)

庁内デジスマ推進WG データ連携基盤部会

- ・活用事例を通じた理解促進
- ・各課が有するデータのオープンデータ化の検討
- ・ユースケースの検討

(7/13(火)開催)

3次元点群データ勉強会



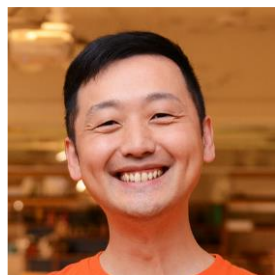
静岡県交通基盤部政策管理局
建設政策課
イノベーション推進班 班長

杉本 直也 氏

- ・点群データの基礎知識
- ・活用事例や将来的な可能性
- ・点群データのオープンデータ化に向けて

(8/2(月)開催)

オープンデータ研修会



・(一社) コード・フォー・ジャパン
代表理事
・内閣官房CIO補佐官
・浜松市フェロー

関 治之 氏

- ・オープンデータ利活用事例集を用いた
オープンデータの可能性
(予定)



教育機関との連携

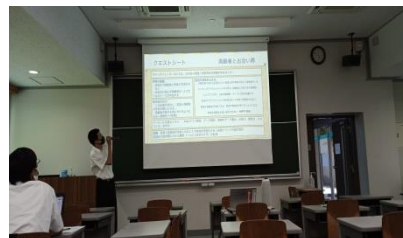
静岡大学

オープンデータをテーマとした アイデアソン・データソン

- 主催
静岡大学情報学部（協力：静岡県、浜松市）
- 開催日
アイデアソン：7月 4日（日）9：30～17:00
データソン：7月18日（日）10:00～17:00
- 参加者
社会人6名、大学生8名、高校生5名

浜松市の地域課題解決や地域資源の発掘、地域の魅力向上及び活性化を図ることを目的に、オープンデータの利活用をテーマとしたアイデアソン・データソンを実施。

（今回使用されたオープンデータの例：空き家の位置、人口分布、公共施設、3次元点群データ・・・など）



浜松未来総合専門学校

オープンデータをテーマとした アイデアソン・データソン

取組概要

「デジタルを活用した地域課題解決」をテーマに、課題発見、解決策の検討、検証、発信までを行うPBL型授業を実施する。

参加学生

同校 4カレッジ11学科の1年生 331名

※4カレッジ：デザイン・クリエイションカレッジ、IT・テクノロジーカレッジ、こども・医療事務カレッジ、国際カレッジ

スケジュール

7/13 第1回 キックオフ

9/ 7 ～12/21 週1回活動（全15コマ）



浜松市の特徴・強みを活かして、スーパーシティを目指します。



①国土縮図型政令指定都市

- ・ 広大な市域で約 7 割が森林
- ・ 沿岸部や都市部、中山間地域などの多様な自然社会環境
- ・ 過疎地域※が市域面積の約 5 割

②健康寿命日本一

- ・政令指定都市・特別区のなかで、
男女共に3期連続日本一

③ものづくり力

- ・ グローバル企業、多くの製造業の事業所が立地（4,000社以上）
- ・ 優れた人材を輩出する大学や企業
- ・ スタートアップ・エコシステム・グローバル拠点都市

※本市は「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」における卒業団体

浜松市「Well-beingスーパーシティ」の概要

多様な実証実験フィールドである「国土縮図型政令指定都市」のもと、「健康寿命日本一」と「ものづくり力」という強みを活かし、市民の生活の質の向上を実現し、「健幸に暮らせる街に」します。

市民の生活の質の向上を実現 健幸に暮らせる街に

身体の健康

健康寿命日本一

- ・ 健康寿命の延伸
- ・ ウエルネス、ヘルスケア分野の産業振興

最先端技術
の提供



やりがいや
生きがいの
増加

経済の健康

ものづくり力

- ・ 新産業の創出
(成長6分野※)
- ・ 地域経済の
持続的な発展

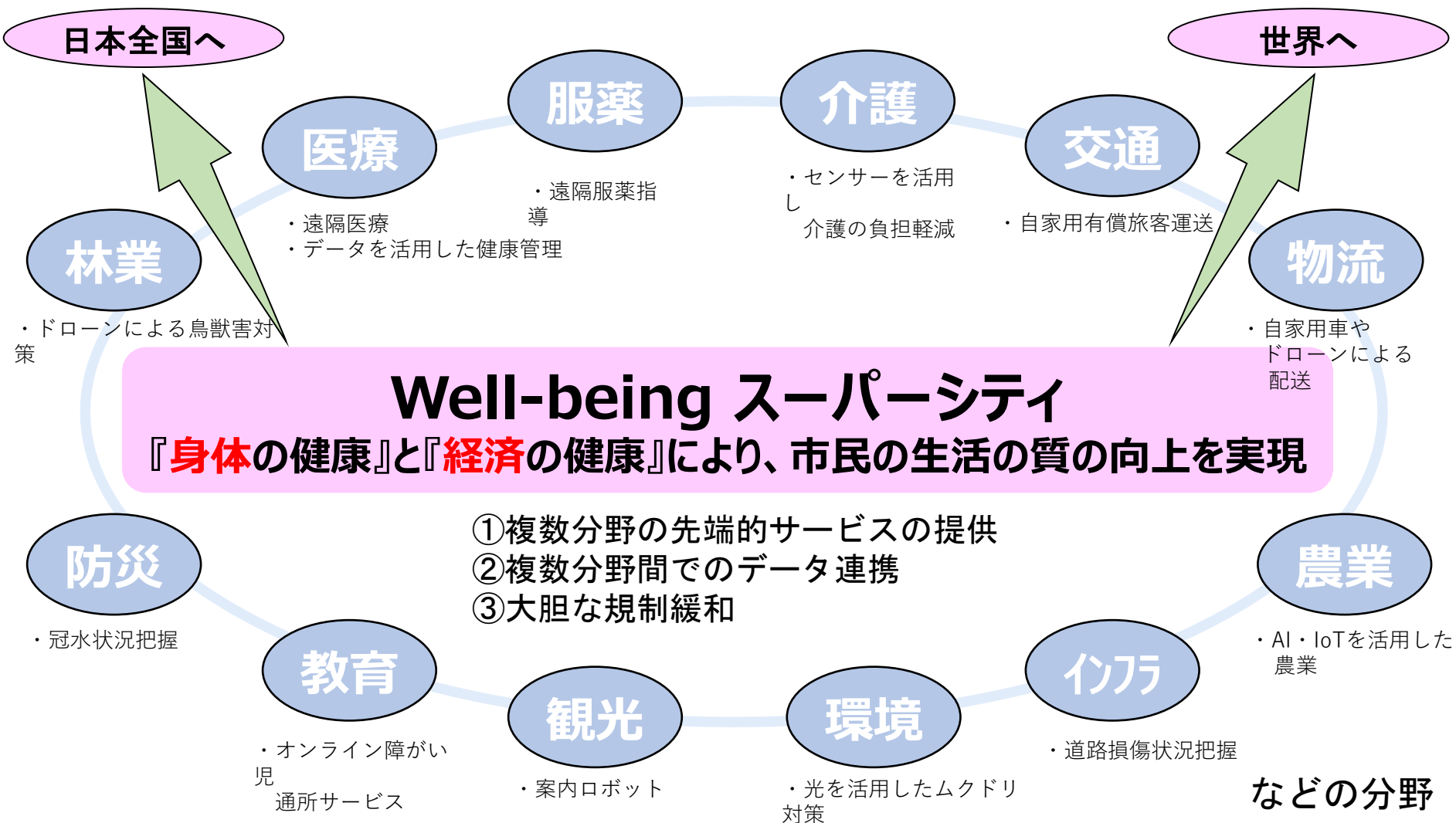
※成長6分野
・ 次世代輸送用機器
・ 健康・医療
・ 新農業
・ 光・電子
・ 環境・エネルギー
・ デジタルネットワーク・
コンテンツ

国土縮図型政令指定都市

- ・ 持続可能な都市モデルの実証・確立

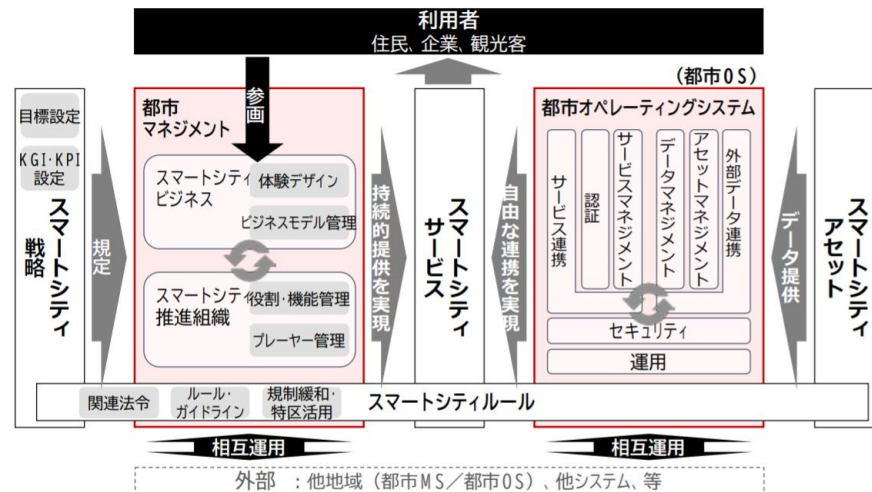
浜松市「Well-beingスーパーシティ」の概要

様々な分野の先端的サービスを実現し、「**身体**の健康」と「**経済**の健康」により、幸せを感じられる浜松市『**Well-beingスーパーシティ**』を実現します。





国土縮図型都市・浜松



リファレンスアーキテクチャー



白坂 成功 氏
慶應義塾大学大学院
システムマネジメント研究科 教授

×



浜松市

国土縮図型都市・浜松において、今年度、慶應義塾大学大学院の白坂教授のチームと連携し、アーキテクチャーから見た、実際のスマートシティの検証を行います。

浜松市のWell-Being = やрмаいか! x グリーン x デジタル

データ駆動型スマートシティ
スーパーシティ構想



コンパクト&ネットワーク
地域生活圏・レジリエンス

Institute Japan



都市の最適化と市民QOLの向上

◆オープンイノベーション ◆市民参加 ◆アジャイルまちづくり

地域課題解決

イノベーションや新たなビジネス創出

浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム

◆分庁別連携推進 ◆データ活用推進 ◆事業化支援 等



ウェルビーイング
リバビリティ



脱炭素・グリーンリカバリー
循環経済・社会

Make our city!

©Code for Japan



浜松から、やрмаいか！